

家畜改良増殖目標畜種別研究会における検討状況について

1. 第 1 回研究会

次期家畜改良増殖目標を検討するため、畜種別に研究会を設置・開催し、本年 6 月から検討を開始。

(1) 開催状況

- ・乳用牛（6 月 9 日）
- ・肉用牛（6 月 8 日）
- ・豚（6 月 17 日）
- ・鶏（6 月 10 日）
- ・めん山羊（6 月 27 日）
- ・馬（6 月 24 日）

(2) 検討事項等

- ① 改良増殖をめぐる情勢
- ② 家畜改良増殖目標に係る現状と課題
- ③ 新たな家畜改良増殖目標の検討の視点について
- ④ 新たな家畜改良増殖目標について（討議）

2. 第 2 回研究会

第 1 回研究会の後、各委員より追加的意見等を頂きながら、新たな目標の骨子案を作成し、第 2 回研究会において議論（肉用牛については別添のとおり）。

(1) 開催状況

- ・乳用牛（9 月 29 日）
- ・肉用牛（10 月 7 日）
- ・馬（11 月 5 日）
- ・豚（10 月 15 日）
- ・鶏（10 月 16 日）
- ・めん山羊（11 月 12 日）

(2) 検討事項等

- ① 委員からの意見等と今後の方向性について
- ② 新たな目標の骨子案について

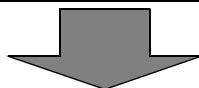
3. 現地調査

家畜改良及び生産現場の調査、関係者との意見交換等を通じ、家畜改良の取組がどのように生産現場で活用され消費につながるか等についての理解を一層深め、今後の家畜改良増殖目標の見直しに係る議論のより一層の深化を図るため、本年 8 月 20 日、現地調査を実施。

新たな家畜改良増殖目標（第10次）の検討状況について －肉用牛－

現状と課題

- ・肥育期間の短縮や飼料利用性の向上については、大きな進展が見られない状況。
- ・繁殖性（分娩間隔等）についても、近年横ばいで推移していることから、新技術を活用した改良手法の導入や飼養管理の改善等を通じた生産性の向上と和子牛の生産拡大を図る必要。
- ・近交係数が上昇傾向にあることから、国内での多様な育種資源の確保を図る必要。



新たな改良増殖目標（案）のポイント

【能力に関する目標】

① 産肉能力

- ・生産コストの低減や赤身肉嗜好などの多様な消費者ニーズに対応するため、増体性の向上に加えて、オレイン酸やアミノ酸組成等の牛肉の「おいしさ」に関する指標化やブランド化等を推進。

② 飼料利用性

- ・種雄牛選抜のための肥育段階における飼料利用性に関する指標化を検討。

③ 繁殖性

- ・1年1産の達成のための適切な繁殖管理を通じた、受胎率の向上や分娩間隔の短縮（特に、長期不受胎牛の管理徹底）を推進。
- ・新たに、種畜の能力評価を行う際、初産月齢と分娩間隔を総合的に評価しうる子牛生産指数を指標として設定。

【能力向上に資する取組】

① 改良手法

- ・繁殖農家における種雄牛選抜に資する広域的な種畜の能力評価を推進。
- ・SNP（一塩基多型）情報を活用した産肉能力、繁殖性等に関する遺伝的能力評価手法や遺伝的多様性の分析を推進。

② 飼養管理

- ・適正な栄養管理やICT等の新技術の活用などを通じた繁殖管理の改善を推進。
- ・早期からの効率的な肥育の開始と、一定の収支バランスが確保しうる段階での速やかな出荷を推進し、肥育期間の短縮に資する。

③ その他

- ・受精卵移植技術の効果的な活用等を通じた和子牛生産の拡大を推進。

※ 現在も議論中の事項

- 単純に初産月齢を早期化するのではなく、事故率の低減を図る観点から、雌牛の初回種付時の十分な発育が重要との意見の反映。
- 広域的な能力評価を進めると特定の種雄牛にニーズが偏り、かえって遺伝的多様性を狭めるのではないかと意見がある一方で、繁殖農家における後継雌牛生産への客観的な評価情報を提供する上でも重要との意見あり。
- 次期「食料・農業・農村基本計画」における食料自給率目標（37年度目標）と整合する目標数値（飼養頭数を含む）の設定。